

日東報発刊に際して

当社の進む道

社長 加藤 陽 一

空が明るい、菊の香かおる秋の日に、会社では社内報が生れました。

皆さんがこの赤ちゃん社内報「日東報」をかこんでガヤガヤ色々な事をいうでしょう。小さいとか、妙な顔だなとか、大きくなったら〇〇になれとか、十人十色にさまざまな事を考へながら見えています。生れたばかりの者に色々注文をつけても無理です。皆さんが愛してゆけば自然に育つでしょう。

社内報「日東報」は会社の内部で、職場の間の交流家庭との連絡、社員相互の親密さ等をはかる連絡誌です。会員も大勢になって来ましたが仕事が多業して会社全体のことが次第にわかりにくくなります。前には口で三四人に話したことが社員にすぐ正確に伝わったのですが、大勢になると何回かの聞きづたえで、その間に若干変わったものになり勝です。こんなときうわ

さや誤報等も生れ易いのです。会社は野球チームのようなもので全社員のチームワークの良い悪いが会社の

道について、当社の進む道、進んで来た道とはいったい何でしょう。当社には昔から使ってきたあい言葉

が有るのです。それは

「本すじを進もう」

大勢の努力を結び合せて社会の必要にこたえて行くには奇手奇策では進めません。ケレンテクダのタゲイではやれることが少



数(ケンボージッスウ)または暴力

威圧、武力などは

強くともこれをば

む反対力が当然

に生れて来て、その力は次第に自然に防がれてしま

います。それは相手に無理に

力で押しつけようとするか

らです。

この反対に本すじは誰

もが進む可き道で、理想に

一歩づつでも近づいてゆく

道です。

大きくいえば人間進化の法則にかなう可き道であります。しかもわかり易い道なのです。社会の良識はこれを支援します。

近道ばかり探して、こそ先廻りをする事を考へず、隊伍を揃えエンジンを整備して一級国道を進もうというのです。

「当然やる可き事をやつて、当然進む可き道を支障なく進もう」というのが会社の基本方針です。

禅でいう「大道無門」。

大道であるから誰でもが考へればわかり、大勢で進んでもハミ出る心配もない。

もちろん大道では門が無いから自由に出入が出来ます。派手縁故等という門も有りませんから安心して進めます。急げば廻れというでは有りませんか。

会社の基本方針「本すじを進もう」は今まで色々困難な場合に進路を決定する

よい導きとなって来ました。この考へ方は個人の考へ方にも勿論、家庭生活においても良い指針となる事を信じています。

社員一同揃ってこの「本すじ」を進みましょう。家

庭の皆さんもこの本筋を歩いて行く社員に御家族として御協力下さるようお願い致します。一般社会よりの御支援も益々厚くなることを信じています。

社内報「日東報」は本すじを進むチームの良いベンチとして今後働いて欲しいと思います。